

特 106

920

宇宙の原子



始





特 106  
920

# 宇宙の原子



本篇は先年日杵新聞に續載を経たる神靈説に就き更に  
 修正増補を加へ編纂刊行の準備中彼の佛經の偈  
 歌に倣らひ作りたるものなるが先づ簡便に由り數十部  
 を製し以て知友に頒ち參考に供す

月 日

大正 3. 9. 25  
 寄贈

廣瀬豊海  
 寄贈本

天 號 識



# 宇宙の原子

天 號 謹 識

宇宙の原子は、只々二ツ、丸き分子と角ある分子

太陽は日は、火の司、熱の分子は、丸きもの、故に是をば、マ○マ○云ふ

太陰は月は、氷の都、冷の分子は、角をもつ、故に是をば、

カ○云ふ

マ○素は、太陽の、熱に誘はれ、浮動生活の、因をなし

カ○素は、太陰の、冷に引れて、沈静組織の、因をなす

マ○カ○の二者こそ、貴けれ、世は只々、冷と熱との、作用によりて、離合集散精粗硬軟、剛柔動静、測るべからざる景象を、實現す



眞名と假子とは、敷多けれど、元をただせば二ツなり  
是故に、何物も、火に焼き、水に漬せれば、速なく消て、失る  
なり

マカ○の和合を、ミ○と稱し、本来太氣の實質ぞ、ミ○は、水、身、  
實、の元資にて、天體、地體、人體や、所有ゆる物體、皆此粒  
子の、結集よ

ミ○ミ○の尊と、之を云ひ、吉祥天とも、申すなり、アスク如來  
も、亦是よ、御妃千々姫は、粒子にして、マカ○の調和を、云へ  
るなり、繼、包、盡、傳、皆此粒子の形容詞

我等の身をも、よく見よや、コマカ○キ分子の集れる、カタ  
マリなるを、見出すべし  
総ての物の、生と死は、マ○素の存否に由るものよ、命を保  
つ、飲食も、ア○マ○と、カラ○との、二ツなり、クフはウマにて

マ○ルはク○ン  
マ○カ○の體より、マ○を去れば、マ○ヌケ、モ○ヌケ、ホ○ガラなり、  
若しカ○を欠ば、忽ち、ホノホとなりて、モ○ユルなりカ○に  
捕はれて、キ○ユルなり

我神傳のマ○カ玉は、天子の、御身に、副と云ひ、マ○はマ○コト  
にて、タマシヒよカ○はカリソメの、カラダなり

佛にマ○カ薩、マ○カ般若、ノウマク、マ○カモダラ、マンダラ、ケ  
ゴン皆此靈氣、マ○カは、地球の名義なり

實眞、權義は、マ○コト、カリ、權義は新陳代謝をし、實眞は、  
連珠聯環にして、退謝せず

太氣の粒子を、微塵と稱し、無量遍滿天地世界に充塞し、  
目にも觸れざるものなれど、世界起元の以前より、未來永

劫、不生不滅不垢不淨不增不减なり我等も少々之を借り  
三



暫時の間、戯樂に耽るも、頓ては元の、不増不減に、復るなり、返る所に、樂か苦か、哀れ残るは、名のみなり、善か悪か、天體全部を例ふれば、鶏の卵の如くにて、黄味と白味の、區別あり、地球の軌道は、白と黄との、界を縦に、運るなり、天體は、故障なくして、寂寞なり、故障なければ透明で、聲なく臭なく味もなし、一度、事故を生ずれば、マカの不調和、ミを傷り、震天動地の異變を起し、陰陽互ひに闘撃し、マ分ムスヒて凝晶し、カ分カラミて緊縮す、是物質の起原にて、造化の作用、種々無量、金は火分の凝集で、銀は氷素の固結なり、始めて太氣に、之れが動機を興へしはトコ立の尊にて、地球の元始なり、トコは、雷電の、音響よ、言と事との一致の因なり、洋經に、神、言を發して天地ありとは、是を謂ふ

導火一邊に發して、釣勢中点に集る、是太陽の發現にして、波脈原體に副ひ、和氣周圍を纏ぐる、是れ太陰の配立なり、我神傳が、地球を以て、第一着に置たるは後人の空想にあらじかし、乃ち地球の發生は、兩義分立の前にあり、是故に、地球は陰陽混淆體なり、隨て、事々物々、兩氣の關係複雑よ、精緻細巧、思想も遠く及ばざる所以、人は智能に誇れるも、より以上、絶奇絶妙の有力者あるを知れ、醫師の藥局、窺ひ見れば、油晶粉水、品多けれど、熱と冷との滓なれば、クサク、キタナキ、ものばかりニガキが多く、アマはなし、之を觀覽より見る時は、色と光はマにありて、形と影は、カのものよ



聲にも、マカ〇の區別あり、トンは陽にて、コンは陰、トロト  
 ロ、コロコロ、雷の聲、トコ〇の尊は是ぞかし  
 目に富むものを、タマト云ひ、身に用ゆるはタカラなり  
 神経は、上より下に循環す、故に足はアシリなり、身體は  
 下より上に發達す故、にカシラはカシリの意  
 熱に四ツの區別あり一アマ、ニヤマ、三ナマ、四カマ  
 アマは、氣中の熱度にて、マヤは、土中の溫度なり、ナマは  
 生物の脂にてカマは、竈の火分なり  
 アマとヤマとは、自然の養殖、ナマとカマとは需用なり  
 洋經に、世界は神の言に成る  
 佛經の、法藏比丘の念願は、實に神の言ぞかし、無量壽經  
 の、四十八願、細かに、之を拜すべし、其成効は十八觀に顯  
 はれて、阿彌陀如來と爲りませり、阿彌陀はアマテルの竺

音よ、始はビルシヤナ、火のスナゴ、之を無量壽佛と唱なへ  
 修道遂げてアマミダとなれり  
 我神傳に顯著なる、天照太神は、比古の太祖で、太陽の創  
 造者たる、こそ畏こけれ  
 総て世界は、微塵より、練られ、組れて成り立ちし、其原因  
 は只々ニツ、丸と角との、形に由りて、動靜離合、様々に、發  
 展進化の結果なり丸形は活動し、角形は沈靜す、之を天動  
 地靜と稱し、総ての作用は、太陽光力の指導に由りて行な  
 はる、是を法藏比丘の成道と謂ふ



大正參年九月廿五日印刷

(定價金五錢)

大分縣白杵町三三六

著作者兼發行人 廣 瀨 豊 海

大分縣白杵町九二四

印刷人 後 藤 福 造

大分縣白杵町

印刷所 白杵印刷株式會社

大分縣白杵町

發行所 甲 斐 書 店





終

